

第3章 計画の基本的な考え方

1. 目指すべき姿

子どもたちは、大切な人材であり、宝です。そのすべての子どもたちの権利が保障され自分の良さや可能性を信じて努力し、挑戦できることが必要です。

しかしながら、現実には子どもたちは生まれ育った環境に大きく左右され、世代を超えて連鎖する「貧困の連鎖」の存在が指摘されています。

貧困の問題は、経済的な要因のみならず、家庭の教育力・養育力不足、社会的孤立、病気、DVなど複合的な要因を背景としており、子どもたちは、生活習慣の乱れ、不健康、不衛生、低学力、いじめ、非行、虐待など様々な困難に直面しています。また、家族の介護や世話に追われて勉強や部活動などの時間が制限されるヤングケアラーの問題がクローズアップされています。こうした厳しい状況にある子どもたちが、生まれ育った環境に左右されることなく、自分自身の力を発揮できるよう、教育の機会均等を図ることにより、健やかに育成される子どもの現在、明るい未来を応援します。学校を地域に開かれたプラットフォームとして位置づけ、学校、行政、地域が連携し、困難に直面している子どもを支援していきます。

また、当事者である子どもの意見に耳を傾け、現在抱えている困難についての解決に向けて努めていきます。

子どもたちが、夢や将来を思い描き、前向きに挑戦し、豊かで幸せな生き方を切り拓く力を育むことのできるまち「あげお」を目指します。

2. 基本目標

すべての子どもが、生まれ育った環境に左右されず、夢や希望を持ち、豊かで幸せな生き方を切り拓く力を育む環境をつくる。